

令和5年度

# 研究のあゆみ



## 研究主題

# 自ら考え、深い学びへと向かう授業の構築

～Thinking & Talkingによる展開を通して～

## I 研究の概要

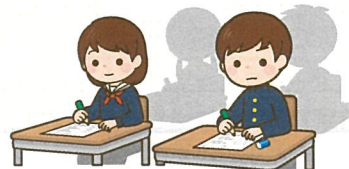
### 1 主題設定の理由

#### 昨年度の成果

- ・生徒の授業に対する意欲的な取組
- ・協働による活動の増加
- ・自分の成長が分かる振り返りの充実
- ・教師の授業における効果的なICT機器の利用

#### 昨年度の課題

- ・基礎的な資質・能力の向上
- ・授業における体験的な活動の設定
- ・自分に自信をもち、目標に向かって粘り強く努力する生徒の育成
- ・生徒の授業におけるICT機器の活用



## 目指す 生徒の姿

- 自分の考えをもち、課題に主体的に取り組む生徒
- 他者との交流の中で、自分の考えを深めることのできる生徒
- 活動を振り返り、自己の変容に気付くことのできる生徒

### 2 研究の仮説

課題解決に向け、自ら考え、自力または協働で解決したとき、学び喜びを実感することができ、それが更なる探究心を生み、「深い学び」へとつながるであろう。

### 3 研究の重点

- ◆自ら考え、主体的な活動を引き出すための工夫
- ◆協働による活動の充実
- ◆授業のまとめと振り返りの充実



## II 授業の実践

### 1 各教科における成果と課題

	研究主題	成 果	課 題
国 語	言葉による見方・考え方を働かせ、主体的に課題を解決しようとする力を高める授業の構築	生徒の言葉から課題を引き出し、生徒自らが活用する知識や技能を主体的に身に付けようとする力を育むことができた。自分の考えを比較・検討・再考することができるよう、相互に伝え合う時間を確保した。	まとめ→振り返りの流れが曖昧なところがあった。単元の見通しを持った上で生徒自らが自分の身に付けた力について振り返り、次に生かしていく自己調整能力を身に付けさせたい。
社 会	広い視野で社会事象を捉え、自分のこととして考える授業の構築	ねらいに迫る発問から、より生活に結び付いたものとして考えることができるよう努めた。また、異なる視点を共有させるためにグループによる話し合いを増やしたことで、自分の考えを根拠を基に説明できる生徒が増えた。	県学習状況調査での「好き」の割合が1年82.9%で県平均を上回っているが、2年71.7%で県平均を下回っている。授業において、「分かった・できた」を実感させることで、学習が好きな生徒を増やしていきたい。
数 学	主体的な問題解決を通して、数学的に考え表現する力を高める授業の構築	ペア活動を多く取り入れ、生徒の「分かった、できた」の実感に努めた。また、授業の終末に達成テストを実施し、生徒が学習内容の理解度を自覚したり、教師自身の指導を振り返ったりすることができた。	授業では「分かった、できた」を実感できていても、その後の学習意欲へつなげることができていない。基本的な知識・技能を定着させるための反復練習を取り入れ、自信をもって学習に取り組めるようにしたい。
理 科	自然事象の中に課題を見付け、進んで探求し、自分の考えを表現しようとする授業の構築	電子黒板を活用した実験の手順や視点の明確化、タブレットを用いた実験結果の共有、キーワードを用いた考察をすることで、実験や考察が苦手な生徒も授業に参加しやすい授業展開にすることができた。	県学習状況調査では、1年生は県平均-7.8ポイント、2年生は-9.2ポイントだった。学習内容の定着や、理科学語を用いた表現に課題が見られたので、復習の時間を十分に設定し、授業中に適切な表現ができていくか確認することを意識して授業を改善したい。
音 楽	言葉での交流を通して他者と協働し、音楽の楽しさを実感できる授業の構築	前時の振り返りを見て、自らの成長や改善点を確認し、学級全体の課題として設定できた。特に合唱では、歌唱表現と話し合いを往還し、生徒相互で意見を交換しながら表現を練り上げることができた。	生徒個々がもった課題の内容にばらつきがある場合、学級で1つの課題にまとめるのが難しいことがあった。話し合いに参加しづらそうな生徒もいたので、自分の意見を気軽に言える雰囲気づくりにも努めたい。
美 術	感性と想像力を働かせ、自分の価値意識をもち、生き生きと創造活動に取り組む授業の構築	題材ごとに「既習事項で役立ったこと」「他者から学んだこと」など、具体的に振り返ることで、学習の成果を実感できるようにした。また、様々な機会タイムリーにアドバイスし合う場を増やすことで自信につながった。	形や色彩などがもたらす感情や効果の違いなどの作品を見る視点や、作品をよりよくする工夫のポイントを分かりやすく示し、造形的な見方・考え方をもてるようにすることで、より自信をもって豊かに表現できるようにしたい。
保 健 体 育	課題の解決に向け見通しを明確にもち、仲間と関わり合いながら主体的に運動し、分かる、できる喜びを実感する授業の構築	生徒の振り返りをもとに学習課題を設定したことにより、生徒の意欲が高まり、「考えることが楽しい」という生徒が増えた。生徒同士が関わる機会を多く取り入れたことにより、互いに技能を高め合う場面が見られた。	授業の中で振り返りシートへ記入する時間を十分に取れなかったことが多く、その時間の各々の気付きを生徒の言葉により全体で共有することが少なかった。
技 術 ・ 家 庭	互いに関わり合いをもって活動し、活用力が高まる授業の構築	他教科との関連性や身近な生活や地域社会と関連する題材を取り入れ、生徒の主体性を引き出すことができた。また、ロイロノートを活用し、お互いの考えを共有したり整理する場面を多く作ることができた。	振り返りの時間を十分に取ることができず、次時への意欲や見通しを持たせることができなかった。外部講師の活用も行うことができたものの、計画的な活用とはいえなかったため、年間計画をもう一度見直したい。
英 語	主体的にコミュニケーションを図り、自分の考えや気持ちを表現できる力を高める授業の構築	身の回りのことや自分の考えを、グループや全体で発表する活動を行った。発表ではプレゼンソフトやタブレットを活用し、見る側の興味・関心を高める工夫がされており、学習意欲向上につながることができた。	生徒の実態や活動内容に合わせて学習到達目標リストを改善・最適化し、目指す姿を生徒に意識させながら授業づくりをする。また、学んだことを、自己表現活動に取り入れられるよう、活動や場の設定を工夫する。

## 2 授業研究会の記録

### 第1学年1組 国語科

#### 「説明文『言葉をもつ鳥、シジュウカラ』」



ねらい

文章に説得力をもたせるための筆者の説明の工夫についてまとめることができる。

つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習課題を確認する。</li> <li>● 本時の活動の流れを確認する。</li> </ul>	主体的に学習に取り組むことができるようにするため、前時を振り返りながら「説得力」という言葉を生徒から引き出す。
むかう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 筆者が行った実験や観察により、なぜ仮説が証明されたといえるのか考える。</li> </ul>	筆者の仮説がどのように証明されたかを捉え、自分の考えをまとめておくようにする。視覚的に分かりやすくまとめ、考えることができるよう、論理構造を図式化する。
深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文章に説得力をもたせるために、筆者がどのような工夫をしているのか考える。</li> </ul>	筆者の工夫について根拠を明確にして考えやすくするため、前時にまとめたスライドを参考にする。
広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習のまとめをする。</li> <li>● 振り返りを書く。</li> </ul>	グループでの話し合いや発表を踏まえてまとめるよう指示する。 今後の自分の表現に生かすことができるようにするため、振り返りの観点を示す。

### 第1学年2組 技術・家庭科

#### 「材料と加工の技術」

ねらい

改善や工夫を施された木質材料の優れた点や問題点を分類し、社会や環境に与える変化や、新たな発想に基づく改良について考えることができる。



つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3つの木質材料の特徴と予想される用途について確認する。</li> <li>● 本時の課題と学習の流れを提示する。</li> </ul>	発表を見やすくするために分類したシンキングツールをディスプレイで表示する。 見通しが立つように黒板に見えるように学習の流れを提示しておく。
むかう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3つの木質材料が社会や環境にもたらす変化や、木質材料のさらなる改良について話し合う。</li> </ul>	思考の手助けとして他学年の学習資料やWebシート、まとめ方の例などをグループに配布する。
深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>● その考えを全体場で発表し、全体で意見交換する。</li> </ul>	各グループで作成したワークシートを提出箱で集め、電子黒板で表示する。
広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習のまとめをする。</li> </ul>	自分の考えが授業前と授業後にどのように変化したかを、記入できるように促す。

### 本時の学習

—— 研究の重点を意識した学習過程 ——

#### 学習のねらいを明確にする

#### 教師

- ・ 興味・関心を引き出す教材の工夫
- ・ 提示の仕方の工夫
- ・ 既習事項の確認
- ・ 発問の工夫
- ・ ヒント、揺さぶり
- ・ 生徒の見取り
- ・ キャリアカウンセリング
- ・ 職員研修
- ・ 相互授業参観

つかむ

#### 学習課題の提示

学習意欲を引き出す導入の工夫  
学習のねらいとのつながり

深める

#### 学び

自分の力で考える  
自ら課題に向かい、自分の考えや問いをもつ

#### 協働による活動

グループ等による話し合い  
思考ツールの活用

広げる

#### 授業のまとめ・振り返り

自己の変容  
何ができるようになったか



- ・ 気付き
- ・ 疑問
- ・ 説明
- ・ 理解
- ・ 振り返り

自分の考えをもてた

自分の考えが言えた

自分の考えが認められた

- 深い学びへ
- 新たな学習意欲

## Ⅲ 研究の成果と課題

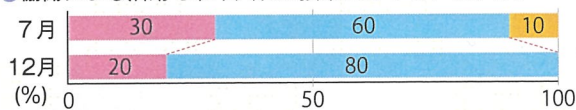
### 1 研究の成果と課題

#### 共通実践事項①協働による活動の充実

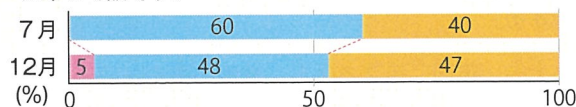
教職員のアンケート（ア）からは、12月に肯定的な回答が100%となり、活動の充実について前進していると読み取れる。実際、シンキングツールやホワイトボードを活用するなどして各教科の表現する力が身に付くよう取り組んでいた。生徒によるアンケート（エ、オ）でも肯定的な回答が90%以上と高い割合を示していた。しかし、生徒と教職員の感じ方にはギャップがあるようである。教職員の評価（イ）では否定的な回答が半数、（ウ）でも7月の71%から47%に改善しているものの低い割合となっている。これは生徒の話合いの活動で得られる成果が教師目線では合格点に達していないということになる。このギャップを埋めるため方策が求められる。

#### 教職員アンケート

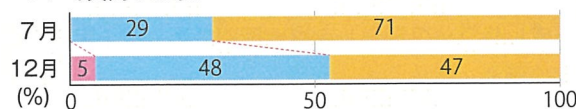
ア 協働による活動を取り入れた授業を行っていますか。



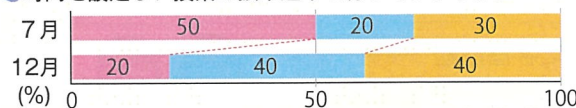
イ 根拠や理由を明確にしたり、他の人の思いや考えをつなげたりして話そう。



ウ 自分の考えと比べ、似ている点や違う点などを意識しながら聞き、よく理解できなかったことや疑問に思ったことについて質問しよう。



エ 時間を設定し、授業の振り返りを行っていますか。



■ よく当てはまる      ■ だいたい当てはまる  
■ あまり当てはまらない      ■ 当てはまらない

### 2 来年度の方向性

協働による活動が「自ら考え、深い学び」へと向かうために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていきたい。また、誰一人取り残さないためにも、「分かった・できた」を実感し自分の成長を自覚できるような場を設定し、生徒の自己肯定感を高めていきたい。

次の二つが必要なるのではないだろうか。

- ◆ 生徒の特性や関心に応じた個別性の高い教育の実現
- ◆ 自他の違いを尊重し、多様な他者と共生できる人間関係の構築

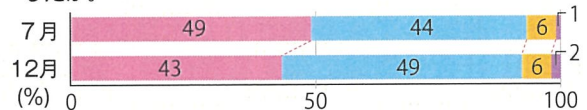


#### 共通実践事項②授業のまとめと振り返りの充実

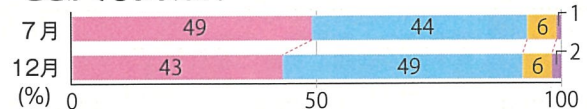
生徒アンケート（キ）では肯定的な回答が90%以上を示し、学習課題の提示からまとめや振り返りの流れが生徒に定着していると考えられる。また、生徒アンケート（ク、ケ）は肯定的な回答が90%以上と高い割合を示し、学習に主体的に取り組もうとしている生徒の姿が想像できる。しかし、否定的な回答が数%見られる。対策として考えているのは、個別最適な学びの充実である。本校の研究推進ではこの部分は非常に弱く、協働的な学びについてが多く、個別最適な学びの一体化はなされていない。ICTの活用や生徒質問紙の分析などより一人一人に寄り添った学びの在り方を考えていきたい。また、教職員のアンケート（エ）では、よく当てはまるが7月の50%から12月は20%と低下しており、まだまだ改善の余地がありそうである。

#### 生徒アンケート

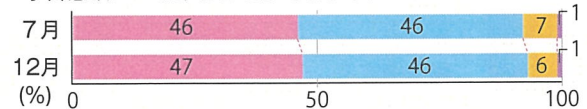
キ 自分は話合い活動に、自分の考えや意見をもって参加しましたか。



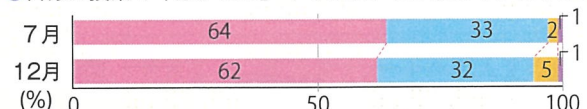
ク 自分は話合い活動で、考えを深めたり自分の意見を伝えることができましたか。



ケ 自分は授業で学んだことをまとめ、学習を振り返り、次の学習意欲につなげることができましたか。



コ 自分は授業で「分かった」「できた」を体験していますか。



カ 自分は授業に目的をもって楽しく臨むことができましたか。

